



赤芝地区の挑戦



もう二度と、この地区で孤独死させない

赤芝地区は、牧丘町西保地区にある高齢化率6割を超える地域です。年々人口が減少し、現在は15世帯、24人が暮らしており、内8人は一人暮らしの高齢者です。

もともと地域のつながりが強かった赤芝地区で令和3年12月に孤独死があったことを契機に、もう二度とこの地区から孤独死を出したくない！と住民有志が立ち上がりました。

途切れていたいきいきサロン「山ゆり会」を復活させ、地域で集まる機会を意図的に作り出しています。

秩父裏街道の歴史を伝える地域

赤芝地区は標高900mにある集落で、地区内には、武田信玄の時代に秩父裏街道の要所とされていた関所跡(右写真:鍵懸関跡)があります。

地区内には、昭和時代に建築された養蚕に特化した家屋が立ち並んでおり、この地での暮らしゆみが感じられる風光明媚な地域です。

「赤芝」の地名の由来として、昔この地で合戦があり、戦士たちの血で芝が赤く染まったので…との一説もあります。



地域の力で 地域を守る



この地に嫁いで50年の暮らしを語る



「昔は人が来ると嬉しくて一緒にお茶を飲んだが、自分も年をとって接待ができなくなったので、行ったら負担になるだろうから行かない方がいいよな、と足が遠のく。今は若手につないでもらっている。

赤芝地区の魅力は、「みんな優しい」こと。入院している間、家に帰りたくて、帰りたくて仕方がなかった。家ほどいい薬はない。ここに居るのが嬉しい。最近見かけない人がいると心配する。自分の家族のようなもんだからね。と互いに気にかけて合う地域の魅力を教えていただきました。



お嫁さんがきた家を
訪ねて地域で祝った
獅子舞。
ここ19年出番なし…

SNSを活用して地区外に住む家族とつながる

赤芝地区では、婦人部が中心となって「赤芝連携」のグループラインをつくり、地区外に住む家族や地域をまわる訪問診療医も参加。日常的に情報交換を行っています。

地域で孤独死が起きないように、新聞店や宅配業者、郵便局などへも協力を要請。災害などの有事に備えて住民名簿を整え、避難カードと地区防災計画の作成をはじめました。今後、地区での避難訓練・炊き出し訓練も予定されています。

また、市長とのふれあいトークや防災講座などを行い、地域の状況を行政等に発信し続けています。

昔はあたりまえにあった「お茶のみ会」の尊さを振り返り、お祭りやいきいきサロン「山ゆり会」の活動を再開するなどして、地域で集まる機会をつくり、顔の見える関係を持ち続けるよう活動しています。



赤芝守ろう会

毎年5月3日には、ふだんは県外で生活している人も皆この地に戻り、地域を守るための清掃活動等に集結しています。

「今日が楽しい」を地域で積み重ねることが、「ここで暮らす幸せ」につながっています。

と柴田さんに語っていただきました。互いに思いやるからこそ遠慮して日常の付き合い合いが減ってしまっている地域で、人と人をつなぐ架け橋となっています。

これまでは地域のことに目も向けず、任せっきりで過ごしてきた。そんな反省も含め、今は自分ができることをして、今までの恩返しをしながらいき、赤芝のつながりを守っていきたい。

五年後、十年後は想像がつかないので、「今日が楽しい」ことを積み重ねていく。

みんなで昔の話ができる時間を持ちながら、一年一年、「今年」を考えていきたい。



柴田 祐子さん

いきいきサロンを運営
赤芝地区 婦人部